

STAGE+を楽しむ(136)(HP 収載)
—カラヤンメモリアル・コンサート—

1. 始めに

前報(135)に引き続き、STAGE+のカラヤンメモリアル・コンサートの試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、カラヤンメモリアル・コンサートの演奏を選びました。

2008年1月 ウィーン楽友協会

収録日: 2008年1月28日

女王ムターとマエストロ小澤の共演といえば、日本のファンにはまだ記憶に新しい2018年12月サントリーホールでのドイツ・グラモフォン創立120周年 Special Gala Concert (サイトウ・キネン・オーケストラ) や2016年10月の同ホール30周年記念ガラ (ウィーン・フィル) の演奏も忘れがたいものでしたが、二人にとって共通の恩師であり、後に『ラロ: スペイン交響曲』(1987年、フランス国立管弦楽団) やDG唯一の共演盤である『バルトーク: ヴァイオリン協奏曲 第2番』(1991年、ボストン交響楽団) などの名盤を生む“橋渡し”役を果たしたとも言える帝王カラヤンに因んだ、こちらのメモリアル・コンサートの映像も鮮烈です。

2008年、生誕100周年のメイン・イヴェントとしてウィーン楽友協会で開催されたベルリン・フィルの記念公演を収録したもので、官能的な美しさを湛えたムターによるベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲に始まり、アンコールのバッハ: シャコンヌも師の思い出に捧げられています。もちろん後半にお届けする渾身のチャイコフスキー「悲愴」もお見逃しなく。当時ウィーン国立歌劇場の音楽監督として楽壇の頂上で活躍していた「世界の OZAWA」の力強い勇姿をご堪能ください。

ソリスト:

アンネ=ゾフィー・ムター (ヴァイオリン)

演奏:

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

指揮:

小澤征爾

曲目:

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン ヴァイオリン協奏曲ニ長調 op. 61

アンネ=ゾフィー・ムター(ヴァイオリン)

ヨハン・セバスティアン・バッハ

無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第2番ニ短調 BWV 1004 より

第3楽章：Sarabande

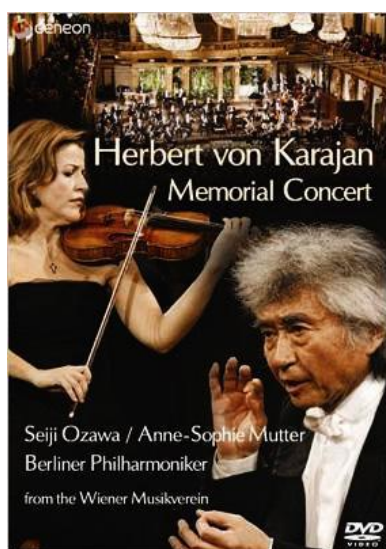
アンネ=ゾフィー・ムター(ヴァイオリン)

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー 交響曲第6番 op. 74 《悲愴》



なお、同じ演奏がありましたのでこれも試聴してみました。

GENEON GNBC-1030



3. 試聴の経過

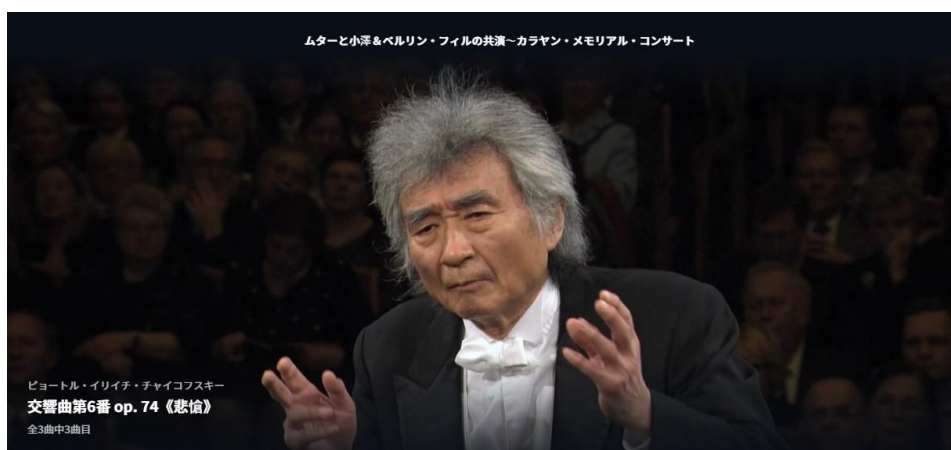
前回に引き続き、スピーカーアキュライザーの位置を変更し、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpLを接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

また、CD クリーナーの効果(9)で報告しましたように PC のストリーミング再生において、PC の液晶画面と LAN iSilencer とルーター に対する CD クリーナーの処理を行っています。

ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲は、ムター一流の華麗なカデンツアもあり、ヴィブラートの効いたヴァイオリンの艶やかな音色が聴きどころです。

アンコール曲のバッハの無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ第2番の Sarabande は、しみじみと聴かせる演奏です。

チャイコフスキーの交響曲第6番は、冒頭のアゴットのソロから木管が続き、爆発的な総奏が始まりますが、小沢のエネルギッシュな指揮の下、ベルリン・フィルの迫力のある演奏がウィーン楽友協会大ホールに響きわたります。このような歴史的演奏が配信で公開されることはありがたいことです。



一方、DVD の方は、演奏内容は STAGE+ と同じで、DMR-UBZ1 の液晶画面や Sonica DAC との間に介在しているデジタルアキュライザー-DACU-500 への CD クリーナーの処理で以前の印象から変わってきています。しかしながら、音の緻密さでは、STAGE+には若干およびません。

4. まとめ

LAN アクライザーと Crstal EpL や CD クリーナーの処理効果により、2008 年の収録ですが、聴き応えのあるレベルになっています。

以上